

toVO トウゴ
PLUS

www.tovo2011.com

SEASON 3

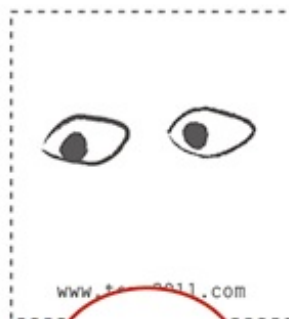


034

あおもりの100家族、わたしたちのこれから

20130111





インタビュー

今号のご家族(平川市) ▶ 菊池 秀一さん・奈都季さん・美天ちゃん
みそら
撮影場所 ▶ ヒロ口(弘前市)

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶ 奈都季さん「その時は家にいました。自動車学校に行かなきゃいけなかったんだけど、様子を見てました。揺れたその瞬間は、なんか頭の中で「非常食!!!」ってなって、弟と防水のでっかいバックに魚肉ソーセージとか腐らなそうなもの詰めました(笑) いちばん大きく揺れた時、電気の下にいて、電気がパンって行って弟の頭の上に落ちてきて、髪にちょっと破片が引っ掛かっただけだったんですけど、すごいわびりして怖かった(笑) あと、その頃、最中モバゲーをやってて、その中でフレンドの人たちが、お互い顔知らないのに「青森だけ大丈夫?」とか、いっぱい連絡くれて、ちょっと感動しましたね。」

▶ 秀一さん「新潟に出張をしていて、そっちは震災の揺れや停電はなかったんですよ。でも、風評被害と言うのもなんですが、職場では宿泊客のキャンセルが続々出て、直接的な影響はなかったもののそのシーズンは営業終了になりましたね。あー、影響なかったと言っても買い物はやっぱり大変だったかな。スーパーには、牛乳とかインスタント系はなんにもなかったし、店の棚の半分くらい空っぽで。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶ 奈都季さん「ローソク生活でしたね!電気つかなくて暗いのが怖かったけど…。ご飯は、蒸かしたさつまいも!(笑)あとはカップラーメンとか、土鍋でお米炊いたりもしました。水道は家で2つ引いて、水はバリバリ出たので、近所の人にお水あげてました!」

●震災後、何か変わったことは？

▶ 奈都季さん「新卒で4月から就職する予定だったのが震災の影響で6月まで自宅待機になったんですよ。その間、社員さんも解雇になったり、一緒に入社する予定だった人も入れなくなっちゃったりで。最終的に新卒では私ひとり入社できることになって、その就職先で旦那と出会う、今に至るんですが、娘が生まれて、もし、また地震とかあって生き埋めになって、自分と娘で助けてってなってても、自分より娘を先に助けてほしいって、そういうことをやっぱり考えるようになりました。自分はどうにかして出るぞって(笑)」

▶ 秀一さん「自分も、結婚してから意識は変わりましたね。それまでは好きな時に寝て、好きなものだけ食べて、みたいな自分中心の生活してたんですが、嫁と子どもという守らなきゃいけない大事なものができて、やっぱり優先順位が変わりました。嫁と子どもなら、嫁は2の次かなあ〜。」

▶ 奈都季さん「ひどい!(笑)」 ▶ 秀一さん「自分でどうにかして出るって言ってたでしょ(笑)」

●10年後は？

▶ 秀一さん「仲良く暮らしてたらそれでいいです。贅沢なくてもいいから。」

▶ 奈都季さん「うん。当たり前のことを当たり前と思わず小さいことでも幸せって思える、そういう気持ちを大事にして、娘にもそれを教えていこうと思ってます。それから良いことも悪いことも、なんでも半分こ精神で!子どもは…増えても、あと1人かな?(笑)」(終)

定期購読のご協力をお願い致します

1年間の定期購読を承ります。1,500円(送料・寄付含)/1年間(12号)です。ご希望の方は、「郵便番号・ご住所・お名前」を明記の上、メール(info@tovo2011.com)にてお申し込みください。

編集後記

毎回取材前になんとかテーマを考えます。今回、若いパパやママの思うところを聞いてみたくて、私と同じ年ながら妻で母な奈都季さんをお願いしました。クラスメイトの口から自然に出てくるお母さんとしてのしっかりした意識に感動しっぱなし。自分よりも他人を思う。勇気があることですよ。【20代前半のヒヨッコ坂本小雪】

東日本大地震・津波遺児チャリティー

tovo トヴォ

2011年6月～2014年12月31日まで

¥2,915,651

を寄付することができました。ご協力に感謝いたします。

【tovo/トヴォ】は、2011年3月11日の東日本大震災によって、親を失った子どもたちを、青森から支援するプロジェクトです。チャリティーグッズを制作・販売し、その経費を除いた全ての収益を、長期的な子どもたちの心のケアの為、あしなが育英会へ継続的に寄付し、青森から「あなたがたのそばにいつもいますよ」と伝え続けます。ご支援・ご協力を宜しくお願いいたします。



【今号のご家族】

今号のご家族（平川市）▶菊池 秀一さん・奈都季さん・美天ちゃん

撮影場所▶ヒロロ（弘前市）

【インタビュー】

●2011年3月11日のこと、憶えていますか？

▶奈都季さん「その時は家にいました。自動車学校に行かなきゃいけなかったんだけど、様子を見てました。揺れたその瞬間は、なんか頭の中で「非常食!!!」ってなって、弟と防水のでっかいバックに魚肉ソーセージとか腐らなさそうなもの詰めてました(笑) いちばん大きく揺れた時、電気の下にいて、電気がパンッって行って弟の頭の上に落ちてきて、髪にちょっと破片が引っ掛かっただけだったんですけど、すごいわびくりにして怖かった(笑)あと、その頃、最中モバゲーをやってた、その中でのフレンドの人たちが、お互い顔知らないのに『青森だけど大丈夫?』とか、いっぱい連絡くれて、ちょっと感動しましたね。」

▶秀一さん「新潟に出張をされていて、そっちは震災の揺れや停電はなかったんですよ。でも、風評被害と言うのもなんですが、職場では宿泊客のキャンセルが続々出て、直接的な影響はなかったもののそのシーズンは営業終了になりましたね。あー、影響なかったと言っても買い物はやっぱり大変だったかな。スーパーには、牛乳とかインスタント系はなんにもなかったし、店の棚の半分くらい空っぽで。」

▶秀一さん「新潟に出張をされていて、そっちは震災の揺れや停電はなかったんですよ。でも、風評被害と言うのもなんですが、職場では宿泊客のキャンセルが続々出て、直接的な影響はなかったもののそのシーズンは営業終了になりましたね。あー、影響なかったと言っても買い物はやっぱり大変だったかな。スーパーには、牛乳とかインスタント系はなんにもなかったし、店の棚の半分くらい空っぽで。」

●その日の夜はどう過ごしましたか？

▶奈都季さん「ローソク生活でしたね！電気つかなくて暗いのが怖かったけど…。ご飯は、蒸かしたさつまいも！(笑)あとはカップラーメンとか、土鍋でお米炊いたりもしました。水道は家で2つ引いてて、水はバリバリ出たので、近所の人にお水あげてました！」

●震災後、何か変わったことは？

▶奈都季さん「新卒で4月から就職する予定だったのが震災の影響で6月まで自宅待機になったんですよ。その間、社員さんも解雇になったり、一緒に入社する予定だった人も入れなくなっちゃったりで。最終的に新卒では私ひとり入社できることになって、その就職先で旦那と出会って、今に至るんですが、娘が生まれて、もし、また地震とかあって生き埋めになって、自分と娘で助けて一ってなってても、自分より娘を先に助けてほしいって、そういうことをやっぱり考えるようになりました。自分はどうかして出るぞって(笑)」

▶秀一さん「自分も、結婚してから意識は変わりましたね。それまでは好きな時に寝て、好きなものだけ食べて、みたいな自分中心の生活してたんですけど、嫁と子どもという守らなきゃいけない大事なものができて、やっぱり優先順位が変わりました。嫁と子どもなら、嫁は2の次かなあ〜。」

▶奈都季さん「ひどい！(笑)」

▶秀一さん「自分でどうにかして出るって言ってたでしょ(笑)」

●10年後は？

▶秀一さん「仲良く暮らしてたらそれでいいです。贅沢しなくてもいいから。」

▶奈都季さん「うん。当たり前のことを当たり前と思わず小さいことでも幸せって思える、そういう気持ちを大事にして、娘にもそれを教えていこうと思っています。それから良いことも悪いことも、なんでも半分こ精神で！子どもは...増えても、あと1人かな？(笑)」

【編集後記】

毎回取材前になんとかテーマを考えます。今回、若いパパやママの思うところを聞いてみたくて、私と同年ながら妻で母な奈都季さんをお願いしました。クラスメイトの口から自然に出てくるお母さんとしてのしっかりした意識に感動しっぱなし。自分よりも他人を思う。勇気がいることですね。

～20代前半のヒヨッコ坂本小雪